廃プラスチックを回収し適正処理へ

営農企画課

ビニールや肥料袋などの農業用廃プラスチックを回収し、ＪＡが代行処理申請を行う取組みが３月26日、ＪＡの各営農センターで行われました。

この廃プラ回収は、環境保全と不法投棄を防ぎ、農家が廃プラ類を適正処理するための手助けとして、年数回行われております。当日は、ＪＡ職員が農家からの処理委託に対応し、営農センターには廃プラスチックを積んだトラックが次々と訪れました。全体で34人、約3,5ｔが処理委託されました。利用者は「ＪＡが代わりに処理を行ってくれるので大変助かっています。春作業に向けてすっきりしました」と喜んでいました。

▲廃プラを計量機に重ねるＪＡ職員

優良大豆の安定生産を目指す

大豆生産組合

大豆生産組合（高橋信男組合長）による臨時総会が３月18日に開催され、平成27年度の事業報告や次年度の事業計画、役員改選などについて協議し、全議案が承認されました。役員改選で再選した高橋組合長は「大豆生産組合が設立し約15年が経つ。個人だけでなく組合からもＪＡへ要望を出し、より良い組合としていきたい」とあいさつしました。

その後開かれた実績検討会では、全農秋田県本部園芸課の千葉調査役から「今年の白神産のは例年以上に品質がよく、最後まで製品化率が高く、集荷数量・反収も伸びた」と話があり、今後の大豆栽培の取り組みの励みとなりました。

▲今年度の栽培に向けて協議された

春作業に向け農機がずらり

農業機械課

ＪＡあきた白神主催による「農業機械展示会」が３月17日と18日、カントリーエレベーター特設会場で開催され、２日間で約250人が来場しました。

会場には、トラクターやコンバイン、田植え機などの大型機械のほか、「軽量・簡単操作」に基軸をおいた草刈り機などの農機具が展示され来場者の注目を集めていました。また、同会場では農作業安全講習会も行われ、農作業事故の現状や原因などが説明されました。農作業死亡事故の約４割がトラクターによるものであり、春作業に向けて安全点検の重要性や体力に応じた無理のない作業をすることを呼び掛けました。

▲播種機を品定めする来場者

常盤中学校が福祉用具を寄贈

いなほの里

３月10日に能代市立常盤中学校から、ＪＡデイサービスセンター『いなほの里』へ機能回復訓練等に使われる「ルームマーチ」１台が寄贈されました。

同校では毎年、ＪＲＣ（青少年赤十字）委員会が中心となり、地域の家々を回りながらアルミ缶や空き瓶等を回収し、その収益金を使って福祉施設へ備品を寄贈しています。ＪＲＣ委員長の小林ゆうさんは「ルームマーチを健康維持や体力維持にたくさん使ってもらいたい。これからも職場体験などを通じて『いなほの里』のみなさんとの交流を深めていきたいです」と話してくれました。

▲電動アシスト付き運動器具を寄贈

蟹座（6・22～7・22） うっかりミスが増える暗示。いつもの作業でも確認を徹底して。気の合う友達とのおしゃべりが良い気晴らしに